



## 近所のつながりを重ねて

7月に総会を行い、今年も恒例のバス旅行と餅つき交流会の開催が決定いたしました。昨年の餅つきにはたくさんの方々が集まり、賑やかな時間を過ごすことができました(今年の餅つきは12月12日)。

町会という小さな集合体ですが、災害時などには、ご近所のつながりが大きな心の支えになると思います。風通しのいいやさしい地域にしてみたいです。(北町五丁目町会)

## ジュニアサポーターと企画した町会バス研修会

6月28日(日)小雨降る中、37名の参加でカップヌードルミュージアム横浜へ行きました。安藤百福が発明した世界初のインスタントラーメン。五感に訴える展示やラーメン作り体験を通しておいしさの秘密を学びました。午後は赤レンガ倉庫や中華街の散策など自由に過ごしました。今回は地元の中学生～大学生たちのジュニアサポーターによる案内ポスターの作成、車内では施設紹介やゲームをしながら参加者との親睦を深めました。(緑町三丁目町会)

## 活動報告

### ● 2026年度 運営協議会委員

会長／興梠 信子(武蔵野緑町パークタウン自治会)  
副会長／大平 高司(緑町三丁目町会)  
会計／島森 和子(北町五丁目町会)  
磯角 ふみ子(武蔵野緑町パークタウン自治会)  
会計監査／大島 純子(緑町三丁目町会)  
押元 綾子(緑町三丁目町会)  
高橋 豊(北町五丁目町会)  
村井 寿夫(北町五丁目町会)  
萩尾 昌枝(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)  
関口 道美(環境部長)  
三浦 伸夫(ごみ総合対策課クリーンセンター担当課長)

### 会長挨拶 クリーンセンター運営協議会会長 興梠 信子

クリーンセンター運営協議会はクリーンセンター建設とあわせて昭和59(1984)年に周辺地域の3団体(現4団体)で発足し、市との協定に基づき施設運営の監視役として活動を続けてきました。環境啓発施設エコreゾートとともに、私たちのまちの大切なごみ処理施設が、今後も安全で適切な運営が行われるよう、地域の皆さんと一緒に見守っていきます。

＊編集後記＊ 本号最初の二つの施設は大田区城南島にあり周辺には空港や工場などハードな空間が広がっています。しかし、臨海部では環境再生が埋め立て当初から行われ、大井野島公園や海の森公園など、緑の空間が造られています。“ごみ＝環境破壊”から、“ごみ＝環境浄化”へ確実に世の中は進歩していると実感しました。(村井寿夫)

## 非常用トイレの利用とごみの出し方に納得

6月7日(日)梯子車での救出訓練など恒例の防災訓練を実施。今回特に力を入れたのは、災害時の非常用トイレの使い方や必要な枚数、市のごみ回収が再開されるまでの最低5日間の汚物の量や保管の仕方です。ごみの出し方(おむつと同様に可燃ごみと分けて透明ビニール袋で)は市職員の方からのお話でした。在宅避難で大切なことは、家具転倒防止など命を守ることに、次に、「トイレの備え」が大切なことです。(緑町パークタウン自治会)

## 住民のつながりを深めたい

新たな活動が始まりました。楽しいイベントを行う『SUN』、気軽に集まり情報交換する場として『ひだまり』。自治会ではこの二つを通じて住民同士のつながりを広げ、親睦を深めていくことを目指します。集会室を整備して居場所を作り、広くは防災にもつながっていきたいと思います。7月には『SUN』でかわいいキーホルダーとスクラッチアート作りを行いました。(武蔵野緑町二丁目第2アパート自治会)

### ● 2025年度 運営協議会 決算 単位＝円

| 収 入    |           | 支 出    |           |
|--------|-----------|--------|-----------|
| 市補助金   | 1,000,000 | 事務費    | 5,500     |
| その他の収入 | 80,387    | 広報費    | 320,331   |
|        |           | 事業費    | 686,445   |
|        |           | 会議費    | 0         |
|        |           | 備品費    | 0         |
|        |           | 交際費    | 8,251     |
|        |           | 予備費    | 0         |
| 計      | 1,080,387 | 計      | 1,020,527 |
|        |           | 市への返却金 | 59,860    |

### ● 2026年度 運営協議会 予算 単位＝円

| 収 入    |           | 支 出 |           |
|--------|-----------|-----|-----------|
| 市補助金   | 1,000,000 | 事務費 | 10,000    |
| その他の収入 | 60,000    | 広報費 | 330,000   |
|        |           | 事業費 | 700,000   |
|        |           | 会議費 | 5,000     |
|        |           | 備品費 | 10,000    |
|        |           | 交際費 | 5,000     |
|        |           | 予備費 | 0         |
| 計      | 1,060,000 | 計   | 1,060,000 |

編集・発行／武蔵野クリーンセンター運営協議会  
〒180-0012 武蔵野市緑町3-1-5  
武蔵野クリーンセンター内  
電話：0422-54-1221  
●武蔵野市ホームページ  
<https://www.city.musashino.lg.jp/>

＊この広報は、再生紙を使用しています。

## 武蔵野クリーンセンター

# 運営協議会だより 89

武蔵野クリーンセンター運営協議会とは  
1984年施設建設時に地域住民の安全と権利を守るために設置された周辺3地域4団体が参加するクリーンセンター運営の監視役。

## 委員研修報告 武蔵野市の資源ごみ、城南島へ

令和8年6月18日(木)、大田区城南島にある、小型家電などの資源化をする株式会社リーテムの東京工場と、食品残渣から家畜用の配合飼料を製造する株式会社アルフォを見学しました。

両施設は東京スーパーエコタウンの中にあります。東京スーパーエコタウンとは、東京都が臨海部に整備した先進的なリサイクル・廃棄物処理施設が集まる地域です。首都圏のごみ問題解決と、新たな環境産業を創り「資源を循環し、持続可能な社会の実現」を目的としています。武蔵野市は、小型家電をリーテムに、給食残渣をアルフォに搬出しています。

## 小型家電や電気機器などの廃棄物を100%資源化 リーテム東京工場

参考資料：リーテム見学用パンフレット、  
リーテムホームページ

### 小型家電や電気機器のリサイクル

リーテムは1909年創業時からごみの資源化を行ってきました。現在は廃棄物の回収、運搬、保管、処理、マネジメントまで一貫してリサイクル事業を行います。

さまざまな廃棄物を扱いますが、小型家電類については、小型家電リサイクル法に基づき環境省・経済産業省から認定を受けており、130以上の自治体、全国500店舗以上から回収、武蔵野市も年間16,430kg(令和7年度)を搬出しています(右表)。

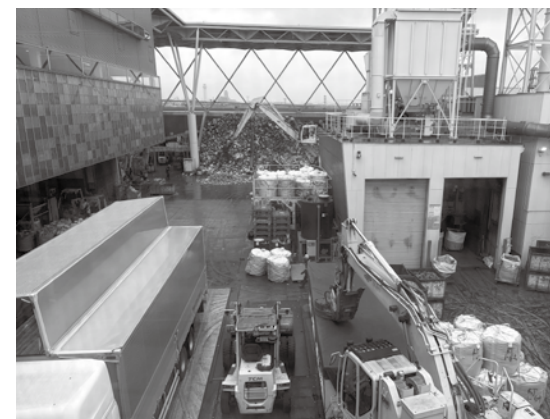
### 前処理選別施設と廃棄物再資源化工場

2つの前処理選別施設(品川勝島ワークス・江戸ワークス)と2つの廃棄物再資源化工場(東京工場・水戸工場)が連携し、多種大量の廃棄物を受け入れ、高効率、高精度な再資源化をしています。

前処理選別施設ワークスで、使用済製品からのリユース部品の取り出し、不燃ごみからのリサイクル原料の選別などを行います。次に東京工場で破碎処理し

## CONTENTS

- P1… **委員研修報告** 武蔵野市の資源ごみ、城南島へ
- P2… **運営協議会委員の** クリーンセンター勉強会
- P3… **ペットボトルは毎週収集に**
- P4… まちのできごと 活動報告



搬入された大量の廃棄物は敷地内に仮置きし、手解体してから破碎機にかけます。

### 武蔵野市からリーテムに搬出される 小型家電類の搬出量(令和7年度) (単位＝kg)

|          |       |               |        |
|----------|-------|---------------|--------|
| コード類     | 2,080 | 携帯電話本体        | 190    |
| 基板類      | 2,160 | 電池入小型家電       | 670    |
| 電動機類     | 9,770 | ハードディスク       | 260    |
| 金属(鉛)    | 280   | タブレット、スマートフォン | 380    |
| 小型デジタル家電 | 640   | 合計            | 16,430 |

選別した非鉄金属混合物(注)を、水戸工場ですらに破碎、細かい選別を経て、高品質な素材としてメーカーや製造会社へ販売されます。

100%再資源化する上で、欠かせないのが手解体、手選別です。安全のためにもリチウムイオン電池などの除去は、手作業で確実に行われています。

注：非鉄金属混合物(ミックスメタル) アルミニウム、銅、真鍮、亜鉛など鉄以外の複数の金属や、プラスチックなどの異物が混ざった金属スクラップ。家電や建材などの破砕片に多く、そのままでは精錬が難しいため、比重や磁力で細かく選別してリサイクルされる。

廃棄する食品を飼料原料とエネルギーへ アルフォ

株式会社アルフォは、売れ残り、消費期限切れ、料理残渣、残飯などの食品廃棄物から、家畜に与える飼料の原料の製造と、食品廃棄物から出る排水を発酵させてバイオガス発電を行っています。

食品メーカー、食品の卸売業者、食品の小売業者、飲食店や食事の提供を伴う業者、自治体等から食品廃棄物を受け入れています。武蔵野市では、食べられない部分や残った給食などの食品残渣を、年間178.05t(令和6年度)をアルフォに搬出しています。

飼料の原料「アルフォミール」の製造

食品廃棄物はビニール袋に入った状態で搬入されてきますが、中にはプラスチックごみや金属類が混入されていることもあり、まず遠心分離機でふるいにかけて99.9%のプラスチック類を取り除きます。また、金属類などは人の手で取り除いています。

その後、廃食用油と混合し、油温減圧式脱水乾燥装置の中で蒸気による間接加熱をして「アルフォミール」という飼料原料を製造します。これは農林水産大臣指定の「食品副産物」にあたり、蛋白質が多く、非常に栄養価が高い単体飼料です。配合飼料の原料として飼料製造工場へ送られ、とうもろこし等と混ぜて造られた飼料は家畜農家へ販売されます。

バイオガス発電

食品廃棄物から分離した高濃度の排水を発酵槽でメタン発酵させて、ガスエンジンで発電を行います。発電した電力は一部を施設で利用し、残りは電力会社などへ売電しています。

油温減圧式脱水乾燥装置  
天ぷらを揚げて水分を蒸発させる原理で、食品廃棄物を減圧下で食用油により温度100℃前後で水分5%程度に蒸発乾燥させ、不純物を除去します。



食品廃棄物の排水を貯めた発酵槽(左)。発酵槽で発生したメタンガスで電力をつくるガスエンジン(右)。

今回の工場視察では、2社ともわかりやすくていねいな説明で、とても勉強になりました。「物を廃棄する＝捨てる」のではなく、「資源として再利用」することの大切さを学びました。

リーテムでは、廃棄物の中にも再利用できる貴重な資源が含まれていること、アルフォでは、通常焼却される食べ残しや売れ残りを回収後に適切に処理して再利用することを知り、再利用を意識してきちんとごみを分別すること、食品ロスを減らす重要性を実感することができました。

参考資料：アルフォ見学用パンフレット

運営協議会委員のクリーンセンター勉強会

クリーンセンター運営協議会委員 押元 綾子

令和8年6月10日(水)、運営協議会委員の勉強会が行われました。運営協議会委員は施設運営を話し合う上で、クリーンセンターについて学習しています。

はじめに「クリーンセンターのあゆみ」について、環境カウンセラーの木村浩氏(当時新クリーンセンター建設担当課長でクリーンセンター元所長)よりお話を伺いました。

武蔵野クリーンセンターは、1984(昭和59)年の稼働開始から建て替えを経て今年42年目を迎えます。なぜ武蔵野市にごみ処理施設が必要になったのか、市民参加で進められた建設から「行政と施設周辺住民のパートナーシップ」による運営協議会の果たしてきた役割など、とても興味深いものでした。今後はこうした歴史を踏まえ、運営協議会の活動をより広く発信し、次世代につなげていくことが必要であると感じました。

続いて工場棟を見学し、ごみ処理の流れ(可燃ごみ、不燃ごみ、粗大ごみ、有害ごみ)とそのしくみについて学びました。生活の変化や社会情勢により多様化するごみ処理の行方を注視していきたいと思います。



実際に施設内を見学しながら、ごみ処理の工程を学習しました。

ペットボトルは毎週収集に



7月1日からペットボトルの毎週収集が始まりました。ペットボトル廃棄量の増加に伴う収集方法の変更です。利便性の向上と、環境負荷の軽減は両立できるのでしょうか。

これまでの経緯

ペットボトル収集に関して、武蔵野市のこれまでの取り組みを振り返ります。

平成30年度「ごみ収集の在り方等検討委員会」の答申を受け、平成31(2019)年4月より、一部資源物の隔週化と収集品目の平準化などを見直しました。

平成31年時のペットボトル等収集回数の変更

|                    | 平成31年3月 | →平成31年4月 |
|--------------------|---------|----------|
| 燃やさないごみ            | 月2回     | 隔週       |
| びん、缶、危険有害ごみ、ペットボトル | 週1回(毎週) | 隔週       |

この見直し実施後、環境負荷などの効果について、令和2(2020)年9月に検証結果が公表されました。

- ・稼働車両台数が年間で253台削減
- ・車両走行距離は、22,876km削減

ごみ収集の効率化も含めての結果なので、ペットボトルの収集変更だけによるものだけではありませんが、環境負荷削減効果は軽油換算値で年間7,626ℓ、CO2排出量では年間約19.7tの削減となりました。

ペットボトル廃棄量の推移と環境改善

ペットボトルを毎週収集とする理由として、「平成28年～令和7年に収集量が約19%増えました(市報6/15号)」と広報されています。

確かに見直しを検討していた平成28、29(2016、17)年の収集量は、年間452t、令和2～7(2020～25)年には、530～550tに増加しています。見直し答申の際(平成30年)のパブリックコメントでは、隔週収集に反対する意見が少なからずあり、「環境負荷の軽減」や「近傍区・市の事例」をもとに、隔週収集への理解を求めている経緯がありましたが、現在は練馬区、杉並区、西東京市、小金井市が毎週収集を実施しています。

この5年で自動販売機に占めるペットボトル飲料の割合が増え、食品や生活用品では、ビン・缶からペットボトル容器への移行が進み、ペットボトル利用の減少は見込めない状況です。

しかし、この間、身近に店舗の回収ポイントが増えています。また、マイボトル利用者のために、ボトル給水のできる施設が整備されつつあり、小さなボトルで小まめに水の補給ができる環境が整ってきました。

市内のマイボトル給水スポットの拡充

武蔵野市では、ペットボトル対応給水スポットの設置を進めています。この施設は、ろ過した水道水を無料でマイボトルに補給できるもので、常温水と冷水が選べます。小まめな水分補給は熱中症対策として有効です。現在、コミュニティセンターなどの公共施設15カ所に設置されています(詳細は「季刊むさしの」154号を参照)。



ペットボトルとプラスチック容器・包装は、クリーンセンターを経由せずに、直接、瑞穂町の中間処理施設へ運ばれるため、これらの輸送頻度を減らすことは環境負荷の軽減につながります。今後、廃棄量が減少した場合には、隔週収集に戻すなど時代に合わせて改善してゆくことが望まれます。

※引用及び参考文献  
・『武蔵野市ごみ収集の在り方等検討委員会最終報告書』平成30年9月  
・令和5年度版事業概要『廃棄物の抑制・再利用と適正処理』武蔵野市 ごみ総合対策課